

## 【所 感】

長崎市議会議員 五輪 清隆

# 福州市友好都市提携35周年記念訪問団 参加報告書（水道交流団）

訪問期間：平成27年11月9日（月）～13日（金）

訪問都市：中国（福州市・上海市）

11月9日（月）～13日（金）に実施された、福州市との友好都市提携35周年記念訪問団の一員として参加してきました。

訪問団は、加藤副市長（団長）・西田副議長（副団長）以下12人の議員と市職員など総勢25名でありました。

長崎と中国は400年以上も前から交流があり、長崎に住む華僑の方の多くが福州市出身であることから、両市は1980年（昭和55年）に友好都市提携を行い、今日まで公式訪問団の相互派遣や水道・水産分野における技術交流など、様々な分野で交流を行っています。

私は、5年前の30周年記念訪問に参加し、水産分野の研修会で昆布・アワビの養殖場所の調査を行いました。今回は水道分野の交流団に参加しました。

長崎市と福州市との水道技術交流は、平成2年に当時の福州市長が来崎、水道施設を見学し、水道技術交流が協議されたことがきっかけとなり、平成3年11月、長崎市から3名の技術交流訪問団が福州市を訪れ両市の技術交流が始まり、今年で24年目を迎えています。

福州市には現在5か所の浄水場があり1か所を建設中でありました。運営する「福州市自来水有限公司」は、1954年に設立され2009年1月に国有企業から現在の有限会社に転換し、職員数は1295名で管理職は福州市政府から派遣され企業の管理を行っていました。

その中で一番感じたことは24時間警備体制によるセキュリティ・防犯システムが強化されて部外者からの不法侵入に対して徹底されていました。（国策で取り組んでいるそうです）

下水処理場は浄水場に比べて歴史は浅いが、技術スタッフは若い女性が多く中国も環境問題を国全体で取り組んでいました。

長崎市では費用対効果を考えると、取り組めない内容を福州市は多額の予算で汚泥処理を世界一の施設を目指していることを実感しました。

今回、福州市友好都市提携35周年記念訪問団の一員として水道分野は、日本の技術が一番と認識していましたが、他国にも学ぶことが多いと思いました。